



高島学園

中学校だより 【第13号】

令和4年 10月20日

TEL36-0079 FAX36-8012

【文責 校長 浦島 容子】

○秋季大会から、マラソン大会、駅伝大会へと

10月が中旬となりました。令和4年度の後半もよいスタートをきりました。生徒は前半でつけた力を着実に発揮しています。

新人戦といわれる秋季大会が先週14日（金）にあり、8年生が中心となったチームで挑む初めての公式戦で、夏休みから積み上げたことを出そうと一心に、どの部もどんな状況にあらうとも最後まで戦い抜きました。また、プレイ中、予期せぬ出来事に対戦チームの選手を思いやる言葉がけをしたり、試合後に礼儀正しく挨拶をしたり、高生生徒の誇らしい姿をたくさん見ることができ、今後のさらなる成長を確信した大会でした。



同じ日、9年生は確認テストでした。いよいよ入試に向けて本格的になったことを感じさせる受験態度でした。頑張っ取り組みながらも、進路の決定には悩みや心配が多いものです。じっくり考え、一つ一つ乗り越えていってほしいと願っています。

10月後半はマラソン大会があり、全校生が3.6kmを走ります。その後は駅伝大会へとつながります。これらの活動を通して、仲間の存在、家族の支え、地域の方々の温かい見守りなど、大切なものを感じ、子どもたちは成長しています。学校も生徒を励まし、一生懸命支えています。子どものより良い育ちに向けて、力を合わせていきましょう。

○ある日の放課後のこと、

ある日の放課後、ある教室の横を通りかかった時に、一人の生徒が机の整頓をしていました。何も声をかけずにその場を去りました。

右の写真は、その生徒が下校した後の教室の様子です。床にごみはなく、机が整然と並んでいました。

その生徒は、残って何かすることがあったのかどうかわかりませんが、一人で黙々と机を整頓していました。その姿には誰かに気づいてほしいとか、認めてほしいとか、そんなふうには全く感じられませんでした。本当にすごいです。まさに「主体的」な行動です。

以前にも、掃除中での同じような生徒の姿を、学校だよりでお伝えしたかと思いますが、高中では、このような場面によく遭遇します。

良いと思うことを実践する生徒が多くなってほしいと思います。



○学園伝統の活動『My City』 地域の方と市内を巡る！

高島学園では、第2ステージの5、6、7年生が縦割り班で、高島市内の会社や事業所を訪問し、地域の産業を学ぶとともに、各社・各所が大切にされている理念をお聞きして、生き方を学ばせてもらっています。この活動は学園開校より続いている取組で、開校より12年経った今、わが学園の伝統となりました。

今年も、全ての班が市内各所で特別な体験や学びを得て、とても充実した時間を過ごしたと、引率して下さった地域の方々から聞かせていただきました。また、「地元なのに知らなかったことがたくさんあって、子どもたちと一緒に学ぶことができて楽しかった。」という声もあり、コミュニティスクールの充実につながったことにも喜んでいきます。児童生徒からは、「いろんな方が優しく話して、親切にしてくださったことがうれしかった」

と、感想がありました。地域の温かいかわりの中で活動をさせてもらいました。

11月9日（水）に発表会を行います。今、一生懸命準備をしています。



○子どもの主体性を伸ばすには、、～学習において～

昨年度から新しい教育の指針（学習指導要領）が、全面的に実施されました。通知表の全ての教科の観点別評価で、「興味関心をもち、意欲的に学ぶことができる」という項目が、「主体的に学ぶことができる」と、変わったことからお気づきだと思いますが、新しい教育では、「主体的な学び」が重視されています。

「主体的に学ぶ態度」とはどのような態度なのか、文部科学省は、「興味関心を持つこと」、「自ら情報を収集して、解決しようとする」、「粘り強く取り組む」、「自分を振り返り、次につなげる」と、解説しています。さて、この主体性を伸ばすにはどうすればよいのでしょうか。

学校では、「学び合い」学習を取り入れ、グループ学習を通して、「なんで？」や「わからへん」と声を上げやすい雰囲気を作り、「こうしたらいいかも」や「これもいいかも」と共に解決していこうとする態度を育てようとしています。生徒の解いてみたくなる課題を出して、説明はできるだけ簡潔にし、自分たちで答えを見つけ出す授業を行っています。

右は、今週の7年生の数学（比例）の授業です。どの班も最後まで粘り強く取り組み、課題を解決しています。

学校での学びを通して、家庭学習で自ら振り返ることが大切です。ここにも、主体的な学びのポイントがありそうです。

